

「多様性のあるまちづくり」検討のテーマ

■テーマ1：大宮の良さを活かしたまちづくり
(まちづくりのコンセプト)

【個別の検討課題】

- ・大宮の良さを継続できるまちづくり
- ・「良いまち」と自慢できるまち、世代を継いで住み続けられるまち、他から人々が移り住んで来なくなるまちのイメージ

■テーマ2：都市機能

(まちの顔にふさわしい機能、おもてなしに必要な機能)

【個別の検討課題】

- ・駅前にあるとよい行政等のサービス機能、生活に必要な各種機能
- ・大宮のポテンシャルを高める商業のあり方
- ・駅前地区の居住機能とその関連機能

■テーマ3：空間のつくり方やあり方

① おもてなしあふれるまちの顔づくり

【個別の検討課題】

- ・まちの顔にふさわしい駅前整備 (基盤整備)
- ・大宮の特徴や魅力を活かした顔づくり
- ・まちの広がり・奥行き形成

② おもてなしの歩行空間づくり

【個別の検討課題】

- ・駅前近辺の円滑な自動車交通処理方法 (発生集中交通量の処理、歩車分離)
- ・業務・商業建物のサービス動線の工夫
- ・駐車場のあり方 (駅広や道路の立体利用、自転車駐輪)
- ・歩行者ネットワークの形成 (敷地内歩行空間)

③ 緑つながる都市空間づくり

【個別の検討課題】

- ・環境に配慮したおもてなしのあり方 (広場空間の確保等)
- ・氷川につながる緑のネットワークの形成
- ・環境技術、情報技術の導入・活用

■テーマ4：まちの顔の実現方策とまちの運営

【個別の検討課題】

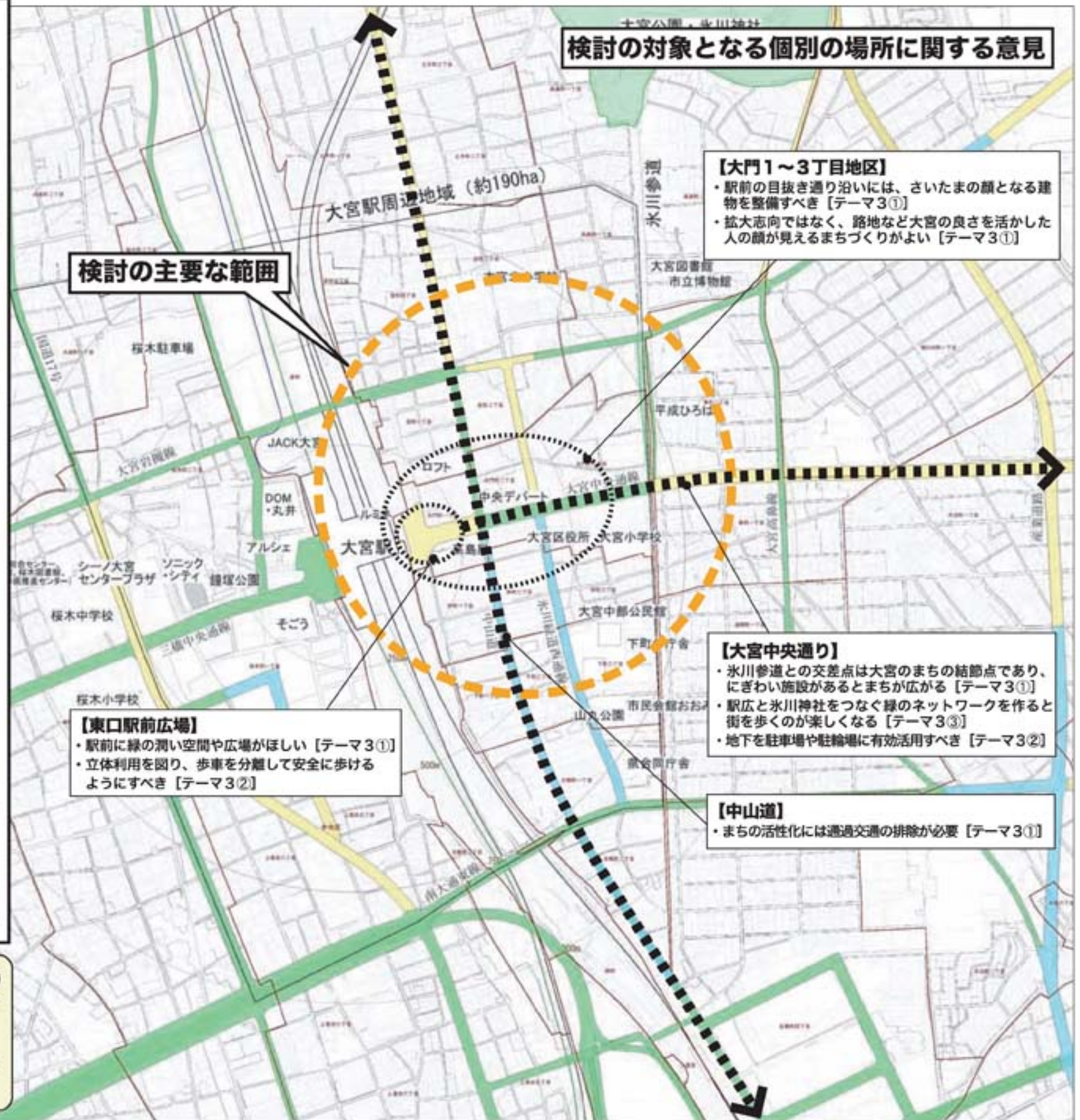
- ・まちの顔を実現するための方策 (基盤整備、民間開発の手法、特区等)
- ・まちの顔を実現する事業の組み立て
- ・活気あるまち運営の仕組み

都市計画道路

- 未整備
- 整備中
- 整備済

(今後、次のような観点から検討を進める)

- ・「再開発に賛成/反対」を言い合うのではなく「よりよいまちにするための方法」を共に考える。
- ・まず現状を認識することが重要である。
- ・買い物や遊びに東京に行ってしまう人を大宮に戻す方法を考える。



検討の対象となる個別の場所に関する意見

【大門1~3丁目地区】
 ・駅前の目抜き通り沿いには、さいたまの顔となる建物を整備すべき【テーマ3①】
 ・拡大志向ではなく、路地など大宮の良さを活かした人の顔が見えるまちづくりがよい【テーマ3①】

【大宮中央通り】
 ・氷川参道との交差点は大宮のまちの結節点であり、にぎわい施設があるとまちが広がる【テーマ3①】
 ・駅広と氷川神社をつなぐ緑のネットワークを作ると街を歩くのが楽しくなる【テーマ3③】
 ・地下を駐車場や駐輪場に有効活用すべき【テーマ3②】

【東口駅前広場】
 ・駅前に緑の潤い空間や広場がほしい【テーマ3①】
 ・立体利用を図り、歩車を分離して安全に歩けるようにすべき【テーマ3②】

【中山道】
 ・まちの活性化には通過交通の排除が必要【テーマ3①】

■大宮の未来を考えるワークショップ アイデアリスト

※第2回(09/10/03開催)での議論の結果に各グループのファシリテーターが補足を行った「アイデアシート」を統合したもの

【C-1グループ 多様性のあるまちづくり】

黒字:参加者意見、青字:グループファシリテーターからの補足

No.	アイデア	改善できる問題、期待できる効果	要検討・確認事項
1	■新しい発見がある街	・イベントの開催や新しい店舗づくり、短期間契約の店舗などによって、新しい発見がある街にする	○どの様な仕掛けが、まちのどのあたり/どの様なところに考えられるか ○上記の仕掛けのアイデアは、現在のまち中で実現が可能か ○どの程度の範囲で行うと、より効果的か ○まちの変化あるいは変化の印象とはどんなコト・モノか ○変化や発見をもたらす仕掛けや仕組みとはどのようなものか(組織・体制、費用の捻出方法など)
2	■雇用創出につながるソフト系の特区とする	・雇用を創出できる職をつくって、人を集める	○「雇用創出につながるソフト系の特区」とは具体的にどのようなことがイメージされるか ○ソフト系の特区に指定される方法の確認。その際、構想の実現可能性はどのように判断されるか ○実際に大宮のまちに導入された場合、どのような効果の連鎖が考えられるか
3	■参道と中央通りが交わる付近にランドマークとなる施設をつくり、街を大きくしたい	・まちのあちこちの結節点を拠点化し、まちに回遊性をもたらし、にぎわいを、まちを拡大させる	○大宮のまちの回遊性が高まる ○まちの結節点に設けたランドマーク(拠点)が集客することで、まちのにぎわいが拡大する
4	■中央通りを拡幅し、浦和インターまでバスレーン化整備を図る	・住環境の向上を図り、定住人口を増加させ、まちの活力を維持する	○バスの定時制を確保することで、大宮駅周辺の宅地の通勤通学環境が改善する ○通勤通学環境が改善することで、大宮駅周辺の宅地の価値が高まる。 ○宅地の価値が高まることで、人口減少社会においても人口が増加し、社会の活力が維持される
5	■さいたまの顔となる商業施設の整備(再構成)		○大宮高島屋を含めてさいたまの顔となるような商業施設を整備し、多くの買物客を集めて、にぎやかなまちにする ○再開発に伴って容積率をアップし、売り場面積を増やして、高島屋が大宮に立地するメリットを増やす(退店防止)
6	■生活サービス施設の充実を図る	・駅に隣接した保育園、学童保育施設や老人施設、車いすや乳母車が通れる幅員の歩道、公民館サービスの充実、多世代が住みやすい街づくり	○駅周辺地区の生活サービス施設の状況を確認する(何があり、何が不足しているか。どこに、どのような施設があればよいか) ○都市型居住の配置(駅前地区に導入・誘導を図るか。事業採算からはどうか)
7	■駅の近くに行政サービス施設を集約させる	・例:区役所、登記所、税務署、保健所	○駅の近くに行政施設をまとめることで、日常生活に必要な手続きの効率化が図れ、住みやすいまちとなる
8	■大門1丁目から3丁目までを開発し、特区も導入する		○駅前一目抜き通り沿いの一等地に高容積(2000%)の建物を整備することで、大宮のまちの顔が形成され、まちが活性化される
9	■街を立体的に使うためのインフラ整備	・通過交通の迂回路の整備:中山道アンダーパスまたはバイパス ※アンダーパス区間は「大宮警察署〜吉敷町」までは最低必要 ・デッキ整備や道路の地下空間の活用(歩車分離、駐車場・駐輪場の整備)	○まちから通過交通が排除される。 ○交通量が減って人が安心して歩くことが出来るようになり、まちが活性化される ○渋滞がなくなって道路が通りやすくなり、物流の効率化が図れる ○デッキや地下空間を活用して歩車分離を図ることで、東口駅前を人が安全に楽しく歩けるようになる ○公共空間の地下に駐車場や駐輪場を整備することで、大宮の駐車・駐輪問題が解決する
10	■中心地は歩行者のみ または休日歩行者天国	・市の中心に入る車を制限する	○歩行者が歩きやすい環境を面的に整備することで街(商業)の活性化を図る →東口の岩槻線(北)、南大通東線(南)、氷川参道(東)、JR線路(西)に囲まれたエリアを対象に入る車を制限する。 その周辺に駐車場や駐輪場を整備する
11	■駅からつながる緑のネットワーク、広場づくり	・駅前に公園風な場所、憩える場所づくり ・潤いの空間、広場の整備	○緑のネットワークを整備することで、大宮のまちが歩きやすい、散歩するのが楽しいまちになる ○緑のネットワークを駅とつなげることで、氷川神社の緑がまちに活かせる
12	■まちの中に駐輪場を整備する		○自転車利用者の利便性が高まる ○邪魔で危険、景観上も好ましくない路上駐輪問題が解決する